

全社協

Action Report

第307号

2026（令和8）年2月16日

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
Japan National Council of Social Welfare
（全社協 ぜんしゃきょう）

総務部広報室 z-koho@shakyo.or.jp

TEL03-3581-7820 FAX03-3581-7854

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル



福祉のお仕事
FUKUSHI-JOB SEARCH



〈事業ピックアップ〉

- 若手職員が語る福祉の魅力
～ 「社会福祉 HERO'S 2025」を開催
- ビジョンをカタチにするための全国の挑戦
～ 包括協が「地域をむすぶ・つなぐ・つつむ実践事例集」を発行

全社協の月刊誌（月刊福祉、保育の友）

事業ピックアップ

● 若手職員が語る福祉の魅力

～「社会福祉 HERO'S 2025」を開催

全国社会福祉法人経営者協議会(磯 彰格 会長)は、1月28日、福祉の仕事のイメージアップを目的に、福祉現場で働く若手職員が自ら仕事の魅力ややりがいをプレゼンするイベント「社会福祉 HERO'S 2025」(第8回)を開催しました。

本イベントでは、全国規模で開催する強みを活かし、社会的訴求力を高めるため、マスコミへの働きかけを行うとともに、ゲストとしてタレントを起用しています。

今年はモデルでタレントのゆうちゃみさんが登壇し、会場を大いに盛り上げました。また、イベント性を高める工夫として、当日は、ゆうちゃみさんによるくじ引きにてプレゼンテーションの登壇順を決定する演出を取り入れました。



トークセッションでプレゼンの感想を述べるゆうちゃみさん

登壇した若手職員6名は、緊張感のある雰囲気の中堂々としたプレゼンテーションを披露しました。当日は会場に約80名が来場し、オンラインでは約150名が視聴しました。登壇者一人ひとりの熱がこもった発表に、多くの参加者が胸を打たれました。

さらに、一昨年からは、より多くの学生・生徒に参加してもらうことを目的に、本イベントとあわせて「学生ヒーローズ賞」贈呈式を開催しています。今回は3団体が受賞し、若い世代の福祉への関心が着実に広がっていることが示されました。

昨年11月に名古屋市で開催したイベント(注)に協力いただいた古知野高等学校の生徒の皆さんも来場し、イベント後の交流企画を盛り上げてくださいました。

(注)社会福祉学生ヒーローズ スピーチチャレンジ! in なごや

本イベントの審査は、有識者からなる特別審査員、学生審査員、事前に実施したSNS投票の各得点の合計によって行いました。その結果、ベストヒーロー賞には、社会福祉法人西春日井福祉会のラマ・サビナさんが輝きました。結果は僅差で、誰が受賞してもおかしくない接戦となりました。

当日の様子は、YouTube(右QRコード)にてご覧いただけます。

「ニートと居候とたかさき」で人気のYouTuber・たかさきさんがイベントの舞台裏に密着したバックステージ動画も近日公開予定です。あわせてぜひご覧ください。



[YouTube「社会福祉 HERO'S ちゃんねる by 全国社会福祉法人経営者協議会」](#)



ファイナリスト(登壇者)の皆さん(プレゼン順)

1	佐藤 涼さん	社会福祉法人 和坂福社会(兵庫県)	
2	藤原 卓さん	社会福祉法人 横浜共生会(神奈川県)	
3	青山 美咲さん	社会福祉法人 平野の里(埼玉県)	
4	光岡 勇祐さん	社会福祉法人 ながよ光彩会(長崎県)	
5	ラマ サビナさん	社会福祉法人 西春日井福社会(愛知県)	★ベストヒーロー賞
6	明正 航太朗さん	社会福祉法人 博愛会(鳥取県)	

学生ヒーローズ賞受賞団体 ※順不同

楊志館高等学校 「お♪ど♪る♪んジャー」(大分県)
田原福祉グローバル専門学校 「たっぷく冒険隊」(愛知県)
松江農林高等学校 「高校生×介護の出前授業プロジェクト」(島根県)

【法人振興部 TEL. 03-3581-7819】

● ビジョンをカタチにするための全国の挑戦

～ 包括協が「地域をむすぶ・つなぐ・つつむ実践事例集」を発行

全国地域包括・在宅介護支援センター協議会(藤原 秀俊 会長/以下、包括協)では、2021(令和 3)年度に策定したビジョン「地域をむすぶ・つなぐ・つつむための未来像(ビジョン)」を指針とし、地域共生社会の実現や人材育成を推進しています。

現場では複雑化する地域課題に対し、他センターの先進事例を知りたいとの声が強くありました。そのニーズに応えるべく、全国から公募した創意工夫に富む 11 件の活動を『地域をむすぶ・つなぐ・つつむ実践事例集』として一冊にまとめました。

本書は、各事例に高齢化率や職員配置等の「地域背景データ」を明記し、成功談だけでなく「苦労や課題」も包み隠さず記載しています。直感的に理解しやすいスライド形式を採用し、自地域で活用するヒントを捉えやすい構成が特徴です。



なお、本書は包括協の会員センター向けの限定資料であり一般公開はしていませんが、地域の支援体制を支える「専門職の知恵」として全国の関係者の間で活用されています。

【事例紹介(一部抜粋)】

全 11 事例のなかから、地域のつながりを再生し、課題を突破した代表的な取り組みをピックアップして紹介します。

① 世代を超えた「たまり場」づくり

認知症カフェを核に、子どもから高齢者までが集える居場所を構築。民生委員の担い手がないという当該地域の弱点を、住民ボランティアや企業の協力を仰ぐことで克服しました。「ありがとう・助けて」と言い合える関係性が、地域全体の見守り体制へと発展しています。

② 住民主体のサロン立ち上げ支援

希薄化した住民同士のつながりを取り戻すため、地域包括支援センターが黒子となってサロンを支援。当初は「運営まではできない」と消極的だった住民が、1年をかけて「自分たちの手で続けたい」と意識変容を遂げた、支え合いのモデルケースです。

③ 認知症を「まちの空気感」で支える

徘徊を「お散歩」と捉える温かい地域をめざし、児童館や図書館と連携した啓発活動「オレンジ・プロムナード」を展開。多様な主体が軽負担で参画できる仕組みを整え、街全体で認知症への理解を深める土壌を育んでいます。

これらの事例は、いずれも熱意と工夫によって成し遂げられたものです。本事例集が全国のセンターで共有されることで、より豊かな地域社会の実現に向けた歩みが加速することを願っております。

【高年・障害福祉部 TEL.03-3581-6502】



詳細については、[出版部ホームページ](#)をご覧ください。

全社協の出版情報

出版部で発行した月刊誌最新号の特集をご案内します。

<月刊誌>

●『月刊福祉』3月号

特集：発達障害に寄り添う

—発達障害のある子どもと家族の暮らしを支える

発達障害への認知の広がりや制度・施策の拡充も背景に、発達障害の診断を受けた子どもの数も増えています。一方で、その特性が当事者の生きづらさにつながらないように、地域のさまざまな関係者が協働して包摂していくことが求められます。

本特集では、発達障害の特徴や生きづらさ、関連制度・施策等に関する論文や、福祉、行政、教育、就労など多様な現場からのレポートを通じて、発達障害のある子どもとその家族の現状を確認し、地域での暮らしを支えるために必要な支援を考えます。

(2月6日発売 定価 1,170円—税込—)



↑画像をクリックすると
試し読みできます。

●『保育の友』3月号

特集：子どもの姿の理解と記録

子どもの姿を捉えた記録から、その子どもに合わせた計画を作成し、保育実践につなげます。自らの保育実践をふりかえったり、保育者間で共有したりするためにも、記録は重要です。

連載「私たちの指導計画」のリニューアルに先立ち、本特集では、子どもの姿から子どもの理解を深めるための視点や、記録の書き方のポイントを学び、計画へのつながりをあらためて確認します。

(2月9日発売 定価 740円—税込—)



↑画像をクリックすると
試し読みできます。

<レポート送付先>

本レポートは、報道関係者、都道府県・指定都市社協、種別協議会等協議員、政策委員会委員、本会理事・評議員の方がたにお送りしています。